

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
（分担）研究報告書

Sensitized migraine screenerの開発および妥当性の検討  
抗CGRP抗体治療による中枢神経感作への影響に関する研究

研究分担者 竹島 多賀夫 富永病院 脳神経内科・頭痛センター

研究要旨

研究要旨片頭痛症例の臨床データを用いて CSI(central sensitization inventory) スコア 40 点以上の症例同定が可能な Sensitized migraine screener を開発する。また、ガルカネズマブにより片頭痛の中枢神経感作が改善するかどうかについて検討する。

團野大介、菊井祥二、石崎公郁子  
富永病院脳神経内科・頭痛センター

A. 研究目的

中枢感作の進行した片頭痛症例を簡便に同定できる Sensitized migraine screener を開発し、その妥当性を検討する。また、片頭痛病態の中心的な役割を果たす神経伝達物質 CGRP を標的にしたモノクローナル抗体ガルカネズマブ治療により片頭痛の中枢神経感作が改善するかどうかについて検討する

B. 研究方法

片頭痛症例の臨床データを用いて CSI (central sensitization inventory)スコア 40 点以上の症例同定が可能な Sensitized migraine screener を開発する。また、CSI 問診票による中枢感作有無をゴールドスタンダードとして、富永病院頭痛センター通院中の片頭痛 200 例に対して Sensitized migraine screener による中枢感作症例同定との比較を行い開発した screener の妥当性を検討する。ガルカネズマブの中枢神経感作への影響は 20 歳以上 65 歳までの片頭痛患者に対して、治療前、治療開始 3 ヶ月後および 6 ヶ月後に中枢感作の評価を行う。

（倫理面への配慮）

倫理審査委員会で承認された説明文書を用いて十分に説明し、参加の同意を取得する。（進捗状況）

screener 開発は令和 3 年 2 月 10 日倫理委員会承認。現在、screener 作成中である。ガルカネズマブの中枢神経感作は令和 3 年 4 月 14 日倫理委員会承認。現在、富永病院頭痛センター 72 例、静岡赤十字病院 50 例、甲南医療センター約 10 例の登録を行った。

G. 研究発表

1. 論文発表

Takeshima T, et al. Erenumab treatment for migraine prevention in Japanese patients: Efficacy and safety results from a Phase 3, randomized, double-blind, placebo-controlled study. Headache 2021;61(6): 927-935.

2. 学会発表

松森保彦, 植田 要, 小森美華, Anthony J. Zagar, Yongin Kim, Dena H. Jaffe, 竹島多賀夫, 平田幸一. 日本における片頭痛に関する横断的疫学調査：片頭痛の疾患負担と医療への障壁. 日本頭痛学会総会(第 49 回), 静岡, 2021. 11.